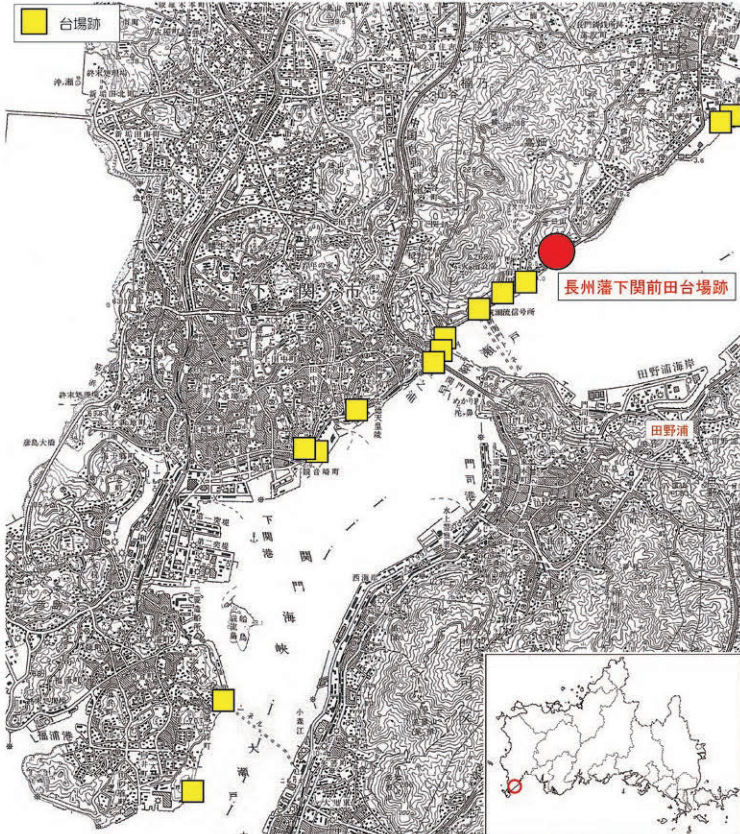
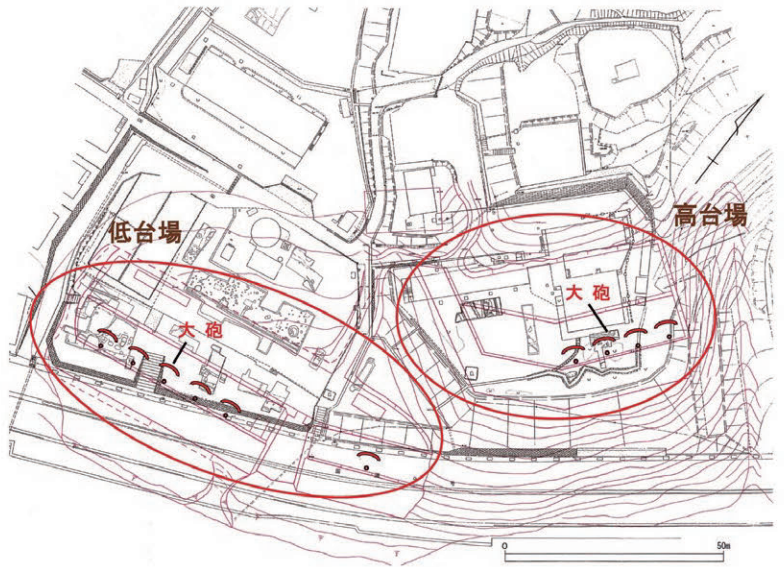


ちょうしゅうはんしものせきまえ だい だい ば あと  
**長州藩下関前田台場跡 [国史跡] 下関市前田**



台場の設置

**二つの台場** 幕末（江戸時代のおわりころ）の攘夷（外国勢力を追いはらうこと）戦争で、長州（萩）藩が下関海峡（現在の関門海峡）に沿って築いた台場（砲台）のひとつです。海岸に近いところにつくられた「低台場」と後に高い場所につくられた「高台場」があります。



発掘調査

**台場の大きさ** 1999(平成11)年から4年間行われました。低台場の砲台は、幅約90m、奥行き約30mで、大砲を設置した東西にのびる幅6m

の平坦な部分が、また高台場の砲台は、幅約50m、奥行き約30mで、外部からの進入をふせぐために、幅3m以上の土塁（土を盛り上げてつくった高まり）が見つかりました。

**砲弾と銃弾** 1864（元治元）年、イギリス・アメリカ・フランス・オランダの四か国連合艦隊17隻による激しい砲撃を受け、上陸した連合軍によって施設は焼き払われました。このときに連合艦隊の軍艦から発射されたと考えられる、地面にめり込んだ砲弾（直径約20cm、重さ約21kg／8インチ砲）、陸戦歩兵用の新式ライフル銃であるミニエー銃の椎の突の形をした銃弾や火縄銃の弾も見つかりました。

**ここがポイント** 強い力をもつ国々の圧倒的な軍事力によって、下関の長州藩の砲台はすべて破壊されました。長州藩が攘夷から開国へ方針を変え、倒幕運動に力を傾けるきっかけとなった重要な遺跡です。

◆アクセス 「前田」バス停から徒歩約4分